

2020年6月19日

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

## Web上の様々な言語の記述方向を実現した「CSS Writing Modes Level 3」への貢献が評価され情報通信技術賞（総務大臣表彰）を受賞

村井純（慶應義塾大学教授）が代表として率いた「次世代 Web ブラウザのテキストレイアウトに関する検討会」および「縦書き普及策検討チーム」が、一般社団法人情報通信技術委員会による 2020 年度の情報通信技術賞（総務大臣表彰）を受賞しました。

本件は、W3C（World Wide Web Consortium）が発表し、2019 年末に国際標準勧告化となった「CSS Writing Modes Level 3」への貢献が評価されたものです。代表の村井をはじめ、国内企業から 28 名の専門家が参加しています。

### 日本発の、国際標準化

今回の受賞は、ウェブブラウザの縦書きレイアウトに関する国際標準化及び普及活動への貢献について評価されました。本プロジェクトは、2004 年から自国文化の継承とデザインの多様化を目的として活動を始動し、15 年の歳月をかけて進められてきました。勧告化に至るまでには、無数の議論や開発、複数国に渡る数多くの有識者やコミュニティ、ステークホルダー間での困難な調整といった国際連携の活動が要求され、それらを経て勧告化を実現したことは、日本発信の国際標準化活動の一つとして歴史のひとつとなるものです。

### 世界各国のニーズに応える技術

本技術は、日本語やモンゴル語などで使われるような縦書きの記述、英語やヒンディ語などの左から右への横書きの記述、ヘブライ語やアラビア語などの右から左への横書きの記述、そして横書きのページに縦書きの領域を挿入する記述など、世界中で利用されている様々な記述方向を実現しています。これにより、同一ウェブページ上で横書きおよび縦書きの記述を混在させる、といったこともできるようになり、日本語固有の文化を実現しながら、世界各国に対してウェブの設計にさらなる自由と高い表現性を提供しています。



## W3C (World Wide Web Consortium) について

W3C (ワールド・ワイド・Web・コンソーシアム) の使命は、世界中の人々にとって Web がオープンでアクセス可能で相互運用可能であることを保証するための技術標準とガイドラインを作成することによって、Web を最大限に活用することです。W3C は、HTML5、CSS など広く知られた仕様を Open Web Platform の理念の下に開発しながら、セキュリティとプライバシーの確保にも取り組んでいます。これらはすべてオープンに開発され、無料で独自の W3C 特許ポリシーの下で提供されます。W3C は、オンラインビデオをキャプションと字幕でよりアクセシブルにするための技術で 2016 年の技術・工学エミー賞を受賞し、テレビ上での視聴をすべての人に、なおかつアクセシブルとするための技術で 2019 年にも同賞を受賞しました。W3C は、米国の MIT コンピュータ科学・人工知能研究所 (MIT CSAIL)、フランスに本部を置く欧州情報数学研究会 (ERCIM)、日本の慶應義塾大学、中国の北京航空航天大学が共同で運営しています。W3C が掲げる「One Web」のビジョンの下、400 を超える会員組織と数十の業界部門を代表する何千人もの真摯な技術者が集まっています。詳細については <https://www.w3.org/> をご参照ください。

※本プレスリリースは、新聞各社社会部等に配信しています。

---

### 【本件についてのお問合せ先】

W3C (World Wide Web Consortium)

URL: <https://www.w3.org/Consortium/contact-keio-ja.html>

E-mail: [keio-contact@w3.org](mailto:keio-contact@w3.org)

### 【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

E-mail: [kri-pr@sfc.keio.ac.jp](mailto:kri-pr@sfc.keio.ac.jp)

T E L : 0466-49-3436

F A X : 0466-49-3594